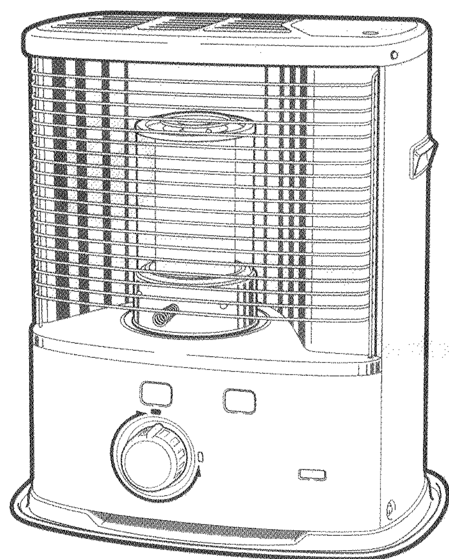
CORONA

コロナ自然通気形開放式石油ストーブ

取扱説明書

正しく使って上手に節約

SX-C21・SX-C26



このたびは、コロナ石油ストーブをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
なお、お読みになった後もお使いになる方がいつでも見られる所に「保証書」と共に大切に保管してください。

燃料は必ず良質の灯油（JIS 1号灯油）を使用してください。

⚠危険



KEROSENE ONLY

ガソリン使用禁止
使用燃料：灯油

⚠警告



寝るとき消火
給油時消火

⚠注意
変質した持ち越し灯油
使用厳禁

もくじ

乾電池別売 乾電池は付属されていません。
乾電池（単一形）2個をお買い求めください。



株式会社コロナ

1 特に注意していただきたいこと、安全のために必ずお守りください

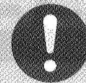
この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ 危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例


⚠記号は注意を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は一般的な注意）が描かれています。


⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合はガソリン禁止）が描かれています。


❗記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は一般的な行為の指示）が描かれています。

⚠危険

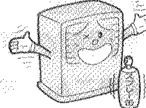
ガソリン厳禁



ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
火災の原因になります。

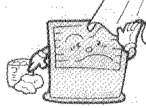
⚠警告

スプレー缶厳禁

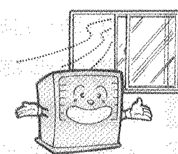
スプレー缶をストーブの上や前に放置しないでください。
熱でスプレー缶の圧力が上がり、爆発し、危険です。

カーテン、可燃物近接厳禁

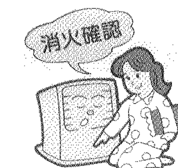
カーテンや燃えやすいもののそばなどでは使用しないでください。
火災の原因になります。

換気必要

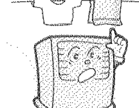
換気せずに使用しつづけないでください。
酸素が不足すると、不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生して中毒になるおそれがあります。
使用中は必ず1時間に1～2回（1～2分）換気して、新鮮な空気を補給してください。
窓の凍結、地下室など換気が十分に行えない場所では、使用しないでください。

寝るとき消火

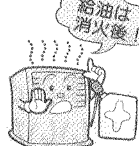
寝るときや外出するときは、必ず消火してください。
又、人目の届かないところでは、使用しないでください。
不完全燃焼や異常燃焼・火災のおそれがあります。
消火の際は、必ずしん調節つまみが消火位置にもどり、火が消えたことを確かめてください。

衣類の乾燥厳禁

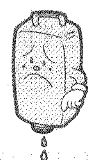
衣類などの乾燥には使用しないでください。
衣類が落下して火がつき、火災の原因になります。

給油時消火

給油は、必ず消火してから行ってください。
火災の原因になります。
こぼれた灯油は、よくふきとってください。

油漏れ危険

給油口口金は確実に締めてください。
給油口口金を下にして、油漏れがないことを確かめてください。
口金を斜めに締めたりすると、簡単に口金が外れて、火災の原因になります。

可燃性ガス使用厳禁



ストーブを使用している部屋で、可燃性ガスが発生するもの（ベンジン、シンナー、ガソリン）、スプレーを使用しないでください。
火災や故障の原因になります。

やかんのせ禁止



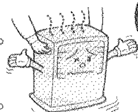
やかんやなべなどをのせないでください。
振動や接触によってやかんやなべなどの熱湯がこぼれ、やけどのおそれがあります。
又、なべの煮こぼれによってストーブ内部の部品が損傷するおそれがあります。

⚠注意

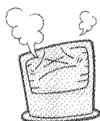
居室内給油禁止

給油は、必ず火の気のないところで行ってください。
火災のおそれがあります。

燃焼中移動禁止


火のついたまま持ち運ばないでください。
やけどのおそれがあります。
また、転倒すると火災の原因になります。

異常時使用禁止


におい、すすの発生、炎の色など異常燃焼を起こしたときは使用しないでください。
緊急の場合でもあわてずにしんを下げて消火してください。（6ページ参照）

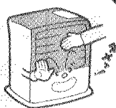
ほこりの除去

ほこりを、ときどき除去してください。
ごみ、ほこりなどがつまると、異常燃焼のおそれがあります。

変質灯油禁止

変質灯油、汚れた油、水の混じっている灯油などを使用しないでください。
異常燃焼やしんが下がらなくなるおそれがあります。

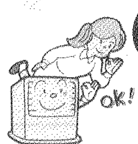
高温部接触禁止


燃焼中や消火直後は、高温部（図のアミ部分）に手などふれないでください。
やけどのおそれがあります。
小さいお子様やからだの不自由な方のいるご家庭では、特に注意してください。

純正部品の使用

しんなどの部品は、必ず純正部品（指定された部品）を使用してください。
予想しない事故が発生するおそれがあります。

正常燃焼の確認



正常に燃焼していることを確認してください。
しんが上がりすぎたり、燃焼筒がずれていたりすると異常燃焼し危険です。

燃焼筒のガラスが割れたままの使用禁止

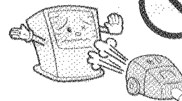
燃焼筒のガラスが欠けたり、割れて破損したままの状態では、絶対に使用しないでください。
異常燃焼したり、すすが発生するおそれがあります。

次の場所では使用しない

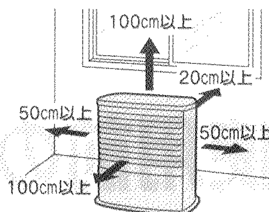
火災や予想しない事故の原因になります。

- 水平でない場所、不安定な場所
- 風のあたる場所、部屋の出入口
- ほこりや湿気の多い場所
- 不安定な物をのせた棚などの下
- 可燃性ガスの発生する場所又はたまる場所
- 温室、飼育室など人のいない場所
- 理・美容室、クリーニング店などスプレーや化学薬品を使う場所
- マントルピースなどストーブが囲われる場所
- 直射日光があたる場所

掃除機の排気に注意


燃焼中に掃除機の排気などをあてないでください。
風があたると赤火が出たり、異常燃焼の原因になり危険です。

可燃物との距離を離す

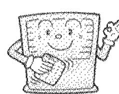


燃えやすいものや障害物とは、必ず図に示す距離をとって設置してください。
火災のおそれがあります。

分解修理・改造の禁止

故障、破損したら、使用しないでください。
不完全な修理や改造は、危険です。
お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

日常のお手入れ時の注意


日常の点検・手入れは必ず行ってください。
点検・手入れは、ストーブが冷えてから行ってください。（7・8ページ参照）やけどのおそれがあります。

保管時にしていただくこと

長期間使用しないとき又は保管するときは、必ず灯油を抜いて（乾電池を取り外して）ください。
傾けたり、横倒しの状態では保管しないでください。
火災のおそれがあります。

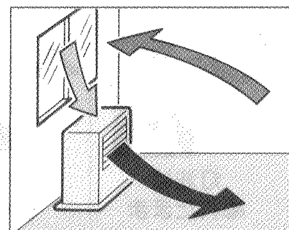
廃棄するときの注意

ストーブを廃棄処分するときは、必ず給油タンク・固定タンク内の灯油を抜き取ってください。（8ページ参照）
灯油が入ったまま廃棄するとリサイクルの際に思わぬ事故になるおそれがあります。

直接長時間あたらない

ストーブに直接長時間あたらないでください。低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。
お子様、お年寄り、病気の方、皮ふの弱い方などがお使いになる場合は、ストーブの取り扱い、部屋の換気、やけど、低温やけどや脱水症状などについて周囲の人が十分注意してください。

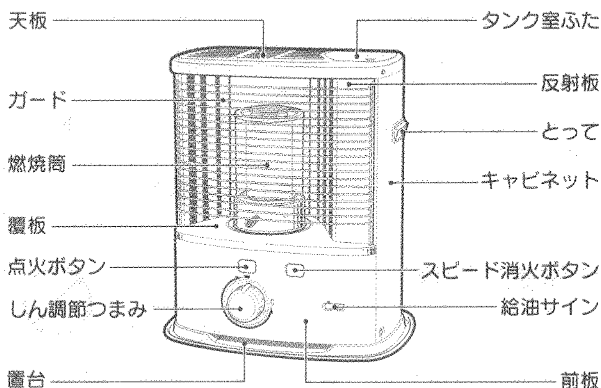
2 効果的に使用するために



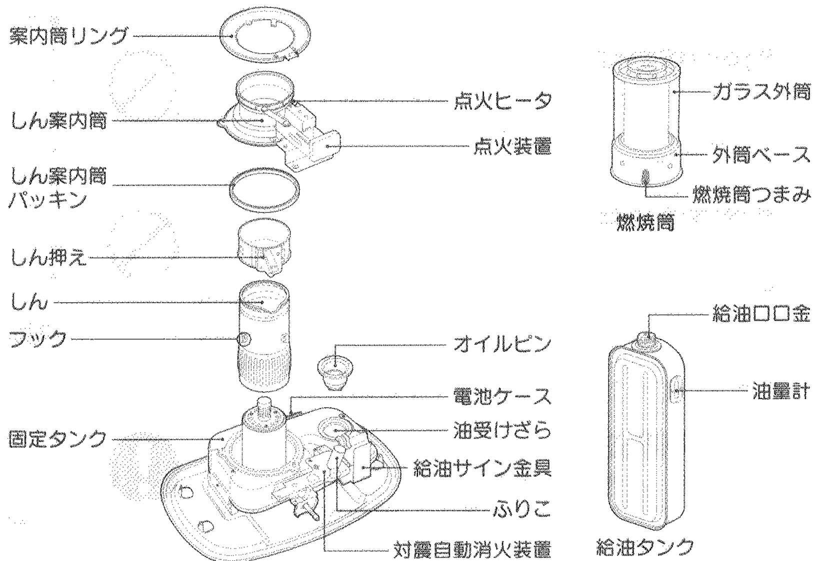
- 外気に接する窓側などに置くと、冷気がストーブで暖められ、上昇対流するので効果的です。
  - カーテンなど可燃物との距離は十分とってください。
- 扇風機やサーキュレーターなどで室内の空気を対流させると、より効果的な暖房ができます。
  - ストーブに直接、風があたらないよう注意してください。

3 各部の名称

外観図



構造図



※単一形乾電池(別売)2個を使用します。

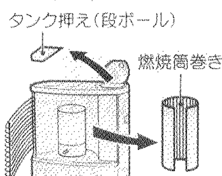
4 使用前の準備

開こんと部品のセット

次の順序で準備してください。

1.包装箱からストーブを出す

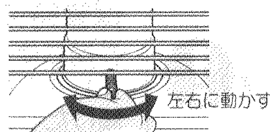
- 包装箱からストーブを取り出してください。
- ガードをとめているテープをはずして、ガードを開いてください。
- 燃焼筒巻きをはずしてください。
- タンク室ふたを開いて、タンク押えをはずしてください。



- 包装箱、タンク押え、燃焼筒巻きはストーブの保管に必要です。また、取扱説明書も忘れずに保管してください。

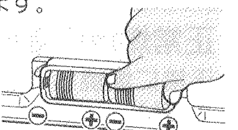
2.燃焼筒をセットする

- 燃焼筒をセットしたら、ガードをもとどおりに取り付けてください。
- 燃焼筒つまみを左右に動かして、しん案内筒に正しくすわっていることを確認してください。



3.乾電池(単一形2個)をセットする

- 乾電池は別売です。
- 同じ種類の新しい単一形乾電池を2個用意してください。
  種類の異なる乾電池、又は新しい乾電池と古い乾電池を組み合わせて使用しますと、液漏れや破裂のおそれがあります。
- シーズン始めにすべて新しい乾電池に交換してください。消耗した乾電池を使用すると、点火しにくい場合があります。
- 後側にある電池ケースに、乾電池を電池ケースの絵の方向に合わせて正しくセットしてください。



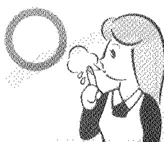
燃料

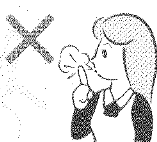
燃料は必ず灯油(JIS 1号灯油)を使用してください。

- **⚠危険** ガソリンなどの揮発性の高い油は絶対に使用しないでください。火災の原因になります。
- **⚠注意** 変質灯油、不純灯油、汚れた油、水の混じっている灯油などは絶対に使用しないでください。
- 添加剤や助燃剤などは使用しないでください。
- 灯油は必ず火気・雨水・ごみ・高温および直射日光をさけた場所に保管してください。

灯油とガソリンの見分けかた

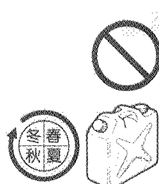
指先に燃料をつけ、息をふきかけます。
(火の気のない所で行ってください。)


灯油はぬれたまま

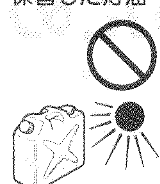

ガソリンはすぐ乾く

変質灯油・不純灯油とは……

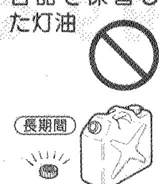
昨シーズンより持ち越しの灯油



長期間日光にあたる所や温度の高い所に保管した灯油



容器のふたが開けてあったり、乳白色のポリ容器で保管した灯油



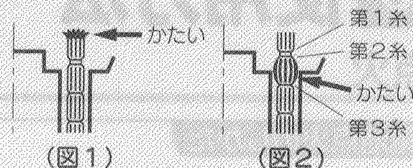
水・ごみや灯油以外の油がほんのわずかでも混入した灯油



- 極度に変質したものは、黄色味ががったり、すっぱい臭いがします。
- 必ず灯油用のポリタンクをお使いください。
- 灯油はシーズン中に使いきりましょう。

■変質灯油や不純灯油を使用すると…

- 油の程度にもよりますが、1日〜30日のご使用で、しんの先端（図1）又は第2糸と第3糸の間（図2）にカーボンやタールが付着し、その部分がかたくなると同時に厚くなって、スピード消火ボタンを押したり、対震自動消火装置が作動しても、しんが下がらず消火しないことがあります。
- 赤熱ムラが出たり、燃焼筒が暗くなり、激しいにおいがしたり、異常燃焼したりします。
- 給油タンクに灯油が残っていても火力が小さくなったり、しんが下がらなくなったりします。
- 点火してから完全燃焼まで時間がかかります。
- 給油タンクや固定タンクが腐食する原因になります。



■万一変質灯油や不純灯油を使用したときは…

- 給油・固定タンク内の灯油を抜き、きれいな灯油で2〜3回洗ってから使用してください。（悪い油が残っていると再発します。）（8ページ参照）
- しんの手入れをしてください。（8ページ参照）
- しんの手入れをしても効果のないときはしんを交換してください。しんの交換はお買い求めの販売店又は、コロナお客様ご相談窓口にご連絡ください。

ご注意
- 変質灯油、不純灯油が原因で修理を依頼されたときは、保証期間中でも保証の対象外となります。
- 変質灯油の処理でお困りの場合は、灯油をお買い求めの販売店にご相談ください。

給油

● ⚠警告 給油は必ず消火してから火の気のないところで行ってください。

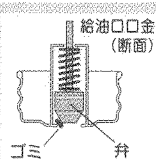
給油の手順と注意

1.給油タンクを取り出し、給油口口金をはずす

●タンク室ふたを開いて給油タンクを取り出し、給油口口金を左にまわして取りはずしてください。

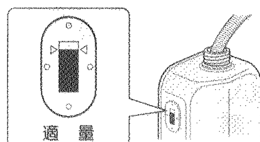


- 燃焼中に給油タンクを持ち上げますと、安全のために給油時自動消火装置が働いて、自動的に消火します。
- 給油口口金の弁の部分にゴミなどがはさまっている場合は取り除いてください。
油漏れの原因になります。



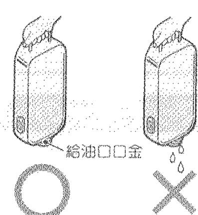
2.給油する

●市販の給油ポンプなどを使用して、油量計を見ながら給油してください。
●油量計の〔▷〕位置まで黒色に変わったら、給油をやめてください。



3.給油口口金を締める

● ⚠警告 給油口口金は、確実に締めてください。
給油口口金を下にして、油漏れがないことを確かめてから、給油タンクをタンク室に正しくセットしてください。

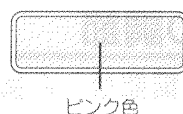


- ⚠警告 給油口口金を斜めに締めたりすると、簡単に給油口口金がはずれて火災の原因になります。
- こぼれた灯油はよくふきとってください。

給油するときのめやす

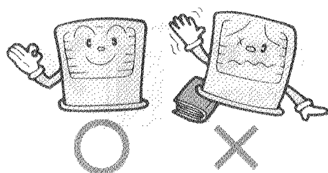
給油サインで確認してください。

●ご使用中、給油タンク内の灯油が少なくなると「給油サイン」で給油の予告をします。
「給油サイン」に、ピンク色が出てきたら、**「給油の手順と注意」**に従って給油してください。
約1〜2時間で給油タンク内の灯油がなくなります。

［灯油が多いとき］	［灯油が少ないとき］	
		
キャビネットと同色	キャビネットと同色　ピンク色	ピンク色

点火前の準備と確認

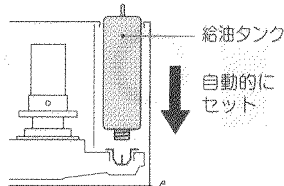
水平な場所に設置



●ストーブは、水平で安定のよい床の上に設置してください。

- 傾斜した場所や振動の激しい場所で使用すると、異常燃焼や対震自動消火装置の誤作動の原因になります。

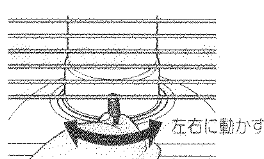
給油時自動消火装置のセット



●給油タンクをセットすると自動的にセットされます。

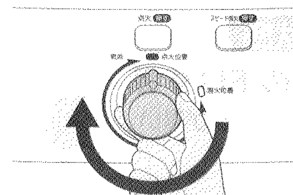
- 給油タンクが確実に入っていないと、セットされません。

燃焼筒の据わり確認



●燃焼筒のつまみを持って左右に2〜3回動かして、しん案内筒に正しくすわっているかを確かめてください。

対震自動消火装置のセット



●しん調節つまみを右（燃焼）方向にゆっくり止まるまでまわすことにより自動的にセットされます。

- しん調節つまみをまわすとき「カチカチ」と音がして重いのは、対震自動消火装置が自動的にセットされているためです。
- 一度セットされますと、しん調節は軽く、音もなくなります。

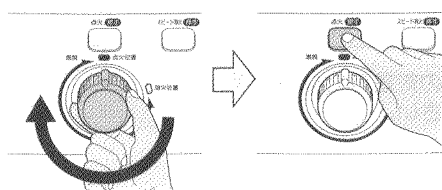
5 使用方法

点火

電池点火のしかた

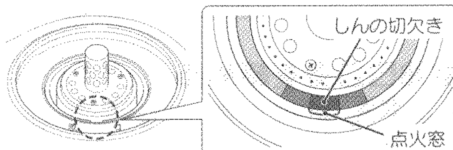
1.しん調節つまみをまわし、点火ボタンを押す

●しん調節つまみを右（燃焼）方向にゆっくり止まるまでまわし、しんをいっぱいに上げてください。（しん調節つまみの突起が真上「点火位置」になります。）
●点火ボタンを静かに止まるまで押してください。



- 点火ヒータ付近から白煙が上がるだけで点火しない場合は、点火ボタンを少し戻すと点火します。（逆に強く押しつけると点火しにくくなります。）
- **点火したことを確認した後も点火操作をそのまま続けていると、点火ヒータのフィラメントが断線したり、破損の原因になります。**

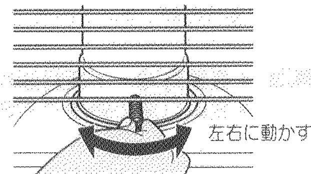
●点火を確認してから、静かに指をはなし点火ボタンが確実にもとの位置に戻っていることを確かめてください。



- 点火ボタンが戻っていないと着火部の点火窓が開いたままとなり、すすが出る原因になります。
- 点火操作時は点火用窓と点火ボタンの間に指をはさまれないように注意してください。

2.燃焼筒のすわり確認

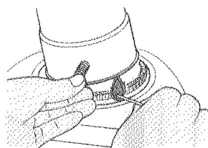
●燃焼筒のつまみを持って、左右に2～3回動かして、しん案内筒に正しくすわっているかを確かめてください。



- ⚠注意 燃焼筒が正しくすわっていないと、最初から赤火ですすけて異常燃焼します。正しく据え付けてください。

マッチ点火のしかた（万一点火ヒータが使えないとき）

1．ガードを開いてください。
2．しん調節つまみを右（燃焼）方向にゆっくり止まるまでまわし、しんをいっぱいに上げてください。
3．燃焼筒つまみを図のように持ち上げてマッチで点火してください。
4．燃焼筒をしん案内筒の上に静かに戻してください。
5．燃焼筒つまみを持って左右に2～3回動かし、燃焼筒のすわりを確かめてください。
6．ガードを閉めてください。

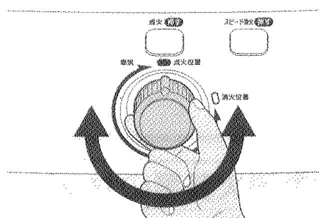


- 初めてご使用になるときや、しんの手入れ、しんの交換、から焼きなどをしたときは、給油後20分以上放置して、しんに十分灯油がしみるまでおまちください。しんに十分灯油がしみないうちに点火すると、吸い上げ不足のため燃焼筒の赤熱不足が続くことがあります。このときは、いったん消火し、20分以上放置後点火してください。
- 初めてご使用になるとき、点火後しばらく多少のにおいがしますが、これはストーブに付着している油などが焼けるときのもので、異常ではありません。

ご注意 ●**マッチの燃えかすをしん付近や置台の上に置かないでください。樹脂部分が焼損したり、火災の原因になります。**

炎の調節

炎の調節はしん調節つまみで行います。

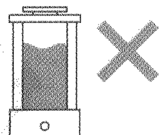


●炎や赤熱の状態を見ながら〔しんの下げすぎ〕や〔しんの上げすぎ〕の状態にならないように調節してください。

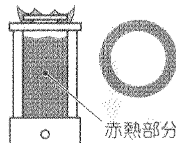
しん調節つまみ	しん	炎
右（燃　　焼）方向にまわす	上がる	伸びる
左（消火位置）方向にまわす	下がる	小さくなる

炎の状態

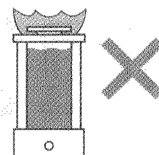
しんの下げすぎ
燃焼筒の上部が黒い



正しい炎の状態
燃焼筒が十分に赤熱し、燃焼筒上の炎の伸びが4cm以下



しんの上げすぎ
燃焼筒上に炎が4cm以上伸びている

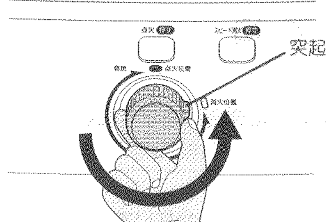


- 点火後15～20分たって、部分的な炎の伸びや、燃焼筒の赤熱ムラがでるときは、燃焼筒つまみを持って左右に軽く2～3回動かしてください。それでも炎が伸びてきたら、しん調節つまみを左（消火位置）方向へまわして、〔正しい炎の状態〕に調節してご使用ください。
- 点火後そのまま放っておくと〔しんの上げすぎ〕のように炎が伸びて、すすや一酸化炭素が発生することがあります。
また、〔しんの下げすぎ〕のように燃焼筒の赤熱が不足している状態で燃焼しますと、においや一酸化炭素が発生するばかりでなく、しんにカーボンが付着し、しん調節も重くなります。このようなときはしんの手入れをしてください。（8ページ参照）
- しんを下げた状態から急激にしん調節つまみを右（燃焼）方向へまわすと、一時的に炎が伸びて、臭いや黒煙が出ることがありますので炎を見ながらゆっくり操作してください。
- 燃焼中は、点火ボタンに触れないでください。点火ボタンを押すと炎が上がります。また押しすぎますと、点火ヒータのフィラメントが変形したり断線したりすることがあります。
- 換気扇・超音波加湿器などを使用すると、炎がピンク色になることがありますが、異常ではありません。

消火

通常消火のしかた

1.しん調節つまみを左（消火位置）方向にまわす



●しん調節つまみを左（消火位置）方向にゆっくり止まるまでまわし、しんをいっぱいに下げて消火してください。
（しん調節つまみの突起が「消火位置」になります。）

- ストーブを押したりして消火しないでください。
- 3～5分で消火します。
- しん調節つまみを早くまわしたときや、小火力で使用してからの消火は、炎が一瞬伸びることがありますので、炎が伸びないようゆっくりまわして消火してください。

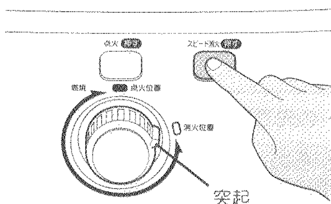
2.消火の確認をする

●必ず消火の確認をしてください。

スピード消火のしかた（緊急時の消火方法）

しん調節つまみで消火することのできない緊急時にだけ使用してください。

1.スピード消火ボタンを押す



●対震自動消火装置が作動し、しんが下がります。
（しん調節つまみの突起が「消火位置」に戻ります。）

- しん調節つまみの突起が「消火位置」に戻らないときは、戻るまでしん調節つまみを左方向へまわしきって消火してください。
- 通常消火にくらべて、消火時のにおいが強くなります。
- 変質灯油などでしんの上部に、タールなどが多く付着していると、スピード消火ボタンを押してもしんが完全に下がりきらない（しん調節つまみの突起が「消火位置」に戻らない）で消火しないことがあります。このようなときはしんの手入れをしてください。（8ページ参照）

2.消火の確認をする

●必ず消火の確認をしてください。

消火しないときは…

しん調節つまみの突起が「消火位置」に戻らないとき

しん調節つまみをまわしても、スピード消火ボタンを押しても、しんが下がらず消火しないときは給油タンクを取り出し、火が消えるまで燃焼させてください。
このようなときは、お買い求めの販売店又は、コロナお客様ご相談窓口にご相談ください。

消火後再点火するときは…

消火後すぐに再点火すると燃焼筒の温度が高く、点火しなかったり、においがします。また、点火ヒータのフィラメントが断線する場合があります。燃焼筒が冷えるまで、5分位待ってから点火してください。

6 対震自動消火装置

強い地震や振動、衝撃を受けたときは対震自動消火装置が作動して自動的に消火します。
しん調節つまみを右（燃焼）方向にゆっくり止まるまでまわすことにより自動的にセットされます。（4ページ参照）

- 対震自動消火装置は、JISに定められた100～200ガルの振動により作動するように調整してあります。従ってご使用中における弱い日常的な振動、傾斜では作動しません。
- 変質灯油などでしんの上部にタールなどが多く付着していると、対震自動消火装置が作動してもしんが完全に下がりきらないで消火しないことがあります。このようなときはしんの手入れをしてください。（8ページ参照）
- 地震によって作動した場合は、周囲の可燃物、ストーブの損傷、灯油のあふれなど異常がないことを確認した後、再点火してください。

7 その他の装置（給油時自動消火装置）

燃焼中に、給油タンクを持ち上げると、自動的に消火します。
給油タンクをセットすると自動的にセットされます。

- 給油タンクが確実に入っていないと、セットされず、点火できません。

8 日常の点検・手入れ

点検・手入れは、消火後ストーブが十分冷えてから、行ってください。

- 対震自動消火装置を分解したり、油でふいたりしないでください。
- しんの標準出寸法は10㎜です。切ったり、長く引き出したりしないでください。
- しん案内筒・給油タンク・燃焼筒は変形させないでください。また燃焼筒を落として、ガラスを割ったりしないでください。

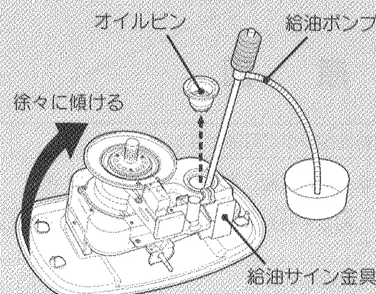
	点検箇所	点検する内容	処置方法
使用ごと	置台 給油タンク	●油漏れ・油のたまりや油のにじみがないか。	●油のたまりや、油のにじみはふきとる。 ●**油漏れのある場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。**
使用ごと	外観 キャビネット、反射板、覆板、置台など	●ほこりや汚れがないか。	●やわらかい布でふきとる。 （ベンジン、シンナー、クレンザーなどでふかないでください。）
使用ごと	外観 天板	●化繊などのほこりが焼きついていないか。	●しめらせたやわらかい布にクレンザーをつけてふきとる。
使用ごと	ストーブの周囲	●可燃物がないか。	●周囲を整理・清掃し、可燃物は取り除く。
使用ごと	乾電池	●ヒータの赤熱が弱くないか。点火しにくくないか。	●新しい乾電池と交換する。
月1回	しん案内筒	●たいらの部分に燃えかすなどがたまっていないか。 （燃えかすなどがたまると燃焼筒のすわりを悪くして、燃焼を阻害することがあります。）	●燃焼筒をはずし、⊖ドライバーの先で燃えかすなどを取り除く。 ●**しんの先端をしん案内筒のたいらの部分に合わせ、燃えかすがみぞに落ちないように注意してください。**
月1回	点火ヒータ	●点火ヒータの位置（しんとの間隔）は正しいか。 （フィラメントが、しんに対してちょうど良い位置にないと点火しにくくなります。）	●しんの出が10㎜のときに点火ヒータの位置がちょうど良いところになります。 ●**位置の調整はお買い求めの販売店に依頼してください。**
月1回	点火ヒータ	●フィラメントの変形、断線はないか。	●変形はマッチ棒などでまっすぐになおす。 ●変形がなおらないものや、断線したものは取り替える。 （9ページ参照）
月1回	しんの点火部	●燃えかすなどが落ちていないか。 ●ほつれていないか。 （点火操作をしてフィラメントがしんのほつれに触れると赤熱が悪くなり点火しにくくなります。）	●燃えかすなどを取り除く。 ●ほつれを切る。
月2回	対震自動消火装置	作動具合 ●乾電池を抜いて、しんを上げ、置台の左側を前後に強く動かしたとき、装置が作動して、しんが最後まで確実に下がるか。	●感震部、作動部を点検する。 （燃焼筒と給油タンクを取り出し、しん調節つまみを抜いたあと、キャビネットの左右側面（下部）の止めねじ4本と操作部中央の止めねじ1本をはずしキャビネットを前方に約45゜傾け、操作部が引っかからないよう注意して持ち上げてはずしてください。）
2カ月に1回	対震自動消火装置	感震部（ふりこ、ベース） ●ごみ、異物、ほこりなどが付着していないか。	●やわらかい布で、ごみ、異物、ほこりなどをきれいにふきとる。
月1回	対震自動消火装置	作動部（しん） ●しんの上下はスムーズか。 ●タールの付着はないか。	●しんの手入れをする。（8ページ参照） ●効果のない場合は、しんを交換する。 （お買い求めの販売店又は、お近くのコロナお客様ご相談窓口にご相談ください。）
しん交換時	しん案内筒パッキン	●のびたり、切れたり、傷んでひびが入っていないか。	●パッキンに、のび、切れ、ひびなどが入っていた場合は交換する。 （お買い求めの販売店又は、お近くのコロナお客様ご相談窓口にご相談ください。）

■油タンク内（給油タンク・固定タンク）の変質灯油や不純灯油を取り除くときは…

処置方法（火の気のないところで行ってください。）

1．スピード消火ボタンを押して、対震自動消火装置を作動させてください。
2．燃焼筒と給油タンクを取り出し、しん調節つまみを抜いたあと、キャビネットの左右側面（下部）の止めねじ４本と操作部中央の止めねじ１本をはずしキャビネットを前方に約45°傾け、操作部が引っかからないよう注意して持ち上げてはずしてください。
3．オイルピンを取り出して、固定タンク内の灯油を図のようにして抜き取り、きれいな灯油で２～３回洗ってください。（給油サイン金具を押し下げながら、オイルピンをはずしてください。）
4．油受けざらの底にたまっている水やごみは必ず布きれでふき取ってください。
5．オイルピンをもとどおりピンがまっすぐ上を向くように取り付けてください。
6．給油タンク内もきれいな灯油で洗い、良質の灯油に交換してください。

しんの手入れもあわせて行ってください。（8ページ参照）



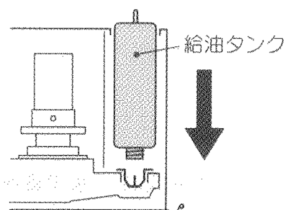
しんの点検・手入れ（月１回）

変質灯油や不純灯油などでしんの上部にカーボンやタールが付着し、不具合が生じたとき（4ページ参照）は、しんの手入れをしてください。

しんの手入れのしかた しんの手入れをするときは、風のあたらない場所で行ってください。風があたると赤火が出たり、異常燃焼の原因になり危険です。又、しんの手入れ中はにおいがしますので換気をしてください。

1.空タンクをセットする

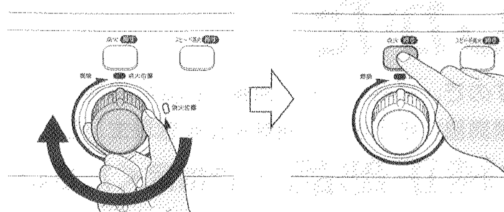
●給油タンクの灯油を抜いて、空タンクをセットしてください。



●セットしないとしんが下がって、しんの手入れができません。

2.しんを上げて点火する

●しん調節つまみを右（燃焼）方向にゆっくり止まるまでまわし、しんをいっぱいに上げたあと点火ボタンを静かに押して点火してください。
●正しい炎の状態で燃焼させてください。（5ページ参照）



3.そのまま灯油がなくなって、火力が小さくなるまで放置する

4.火力が小さくなったらしんをいっぱいに上げ、消火するまで燃焼させる

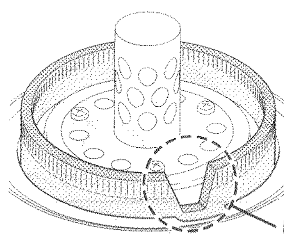
●しんがかたくなっているときは、しんの手入れを２～３回行ってください。
●しんの手入れ後のご使用は、しんを一番下まで下げてから給油タンクをセットし、20分以上待ってしんに十分灯油がしみこんでから点火してください。
しんに十分灯油がしみないうちに点火すると、吸い上げ不足のため燃焼筒の赤熱不足が続くことがあります。

■次のようなときは新しいしんと交換してください。（9ページ参照）

●しんの手入れを行ってもカーボンやタールがとれず、効果がないとき。
●しんが水を含んでしまい、しんの上下操作が重くなったとき。
●しんの上部が消耗して、うすくなったり短くなったり、凹凸になっているとき。

■しんについて

●このストーブのしんは着火しやすいように点火部に切欠きがあります。
●切欠き部分の繊維をほつれさせないでください。



しんの切欠き

9 定期点検

長期間ご使用になりますと、機器の点検が必要です。

●２年に１回程度、シーズン終了後などにお買い求めの販売店又は、修理資格者〔（財）日本石油燃焼機器保守協会（TEL 03-3499-2928）で行う技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など〕のいる店などに点検依頼されることをおすすめします。

10 故障・異常の見分け方と処置方法

●次の表にもとづいて、お確かめください。
●処置方法により処置しても良くならないときは、お買い求めの販売店にご相談ください。

現象 ＼ 原因	点火しない	燃焼筒が赤熱しない	炎がかたよる	においがする	赤火やススが出る	炎が大きくならない	しん上下操作が重い	しんが下がらない	しんがすぐ下がってしまう	消火しない	油タンクに灯油が入っているのに消火する	火のまわりが遅い	処置方法	参照ページ
給油タンクに灯油がない	●	●		●		●						●	給油する	4
水、変質灯油、不純灯油が混入している	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	給油タンク、固定タンク内の油を抜き、きれいな灯油で洗い、しんも交換する	8·9
しんに十分灯油がしみこまないうちに点火した	●	●		●		●						●	給油後はしんを下げて20分以上待ち、しんに十分灯油がしみこんでから点火する	5
しんの上げすぎ			●	●	●								正しい炎の状態になるようにしんを調節する	5
しんの下げすぎ		●		●		●								
燃焼筒のすわりが悪い			●	●	●								燃焼筒つまみを左右に動かしてすわりをなおす	5
長時間閉め切った部屋で使用している		●		●		●							窓をあけ、部屋の換気をする	1
しんにタールが付着している	●	●	●	●		●	●	●		●		●	「しんの手入れ」をする	8
点火ヒータのフィラメントの変形、断線	●												変形をなおすか交換する	7·9
乾電池が正しく入っていない、消耗している	●												⊕⊖を正しく入れる 新しい乾電池と交換する	3
燃焼筒部品の変形、破損		●	●	●	●	●							新しい部品と交換する	10
風、振動を受けている		●	●	●	●	●			●				風の当たらない場所で使用する 振動を受けないようにする	2
しん上下機構が故障している	●						●	●		●			販売店に依頼してすぐ修理する	−
給油タンクが入っていない又は、確実に入っていない									●		●		給油タンクを確実に入れる	4
対震自動消火装置が故障している									●				販売店に依頼してすぐ修理する	−

●燃焼中や消火後に、ときどき「ポコンポコン」という音がしますが、これは給油タンクから固定タンクへ灯油が流出するときの音で異常ではありません。

11 部品交換のしかた

● ⚠注意 不完全な修理、調整は危険ですので、部品の交換、調整が必要な場合には、お買い求めの販売店又は、修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会で行う技術管理講習会修了者（石油機器技術管理士）など〕のいる販売店にご相談ください。

● ⚠注意 部品交換は **コロナ純正部品** とご指定ください。

しんの交換

- しんの交換は、お買い求めの販売店又は、お近くのコロナお客様ご相談窓口へ依頼されることをおすすめします。
- しんは必ず検査に合格または認証された「コロナ純正しん SX-2270」（右のマーク付）をご使用ください。器具に適合しないしんや、粗悪なしんを使用しますと、性能を十分発揮できないばかりでなく火災や中毒の原因になります。
- しんの交換方法は、替えしんに同こんの「石油燃焼機器用しん取扱説明書」に従ってください。



または

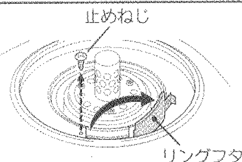


点火ヒータの交換

1.乾電池と燃焼筒を取り出す

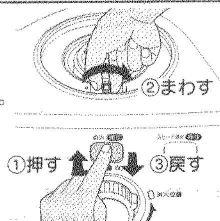
2.リングフタをひらく

●リングフタの止めねじ１本をはずして、リングフタを開いてください。



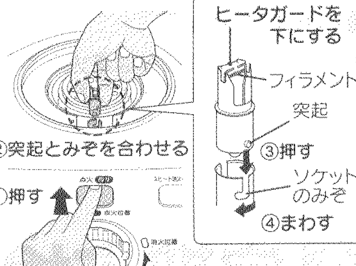
3.点火ヒータをはずす

●点火ヒータ先端が点火窓に近づくまで点火ボタンを押してください。
●点火ヒータを手前に押しながら止まるまで右にまわし、点火ボタンを静かに戻してください。点火ヒータがソケットからはずれます。



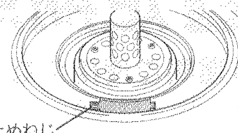
4.新しい点火ヒータを取り付ける

●点火ボタンを押してソケットのみぞの位置を確認してください。
●点火ヒータのヒータガードを下側にして、ソケットのみぞに点火ヒータの突起を入れながら点火ヒータを手前に止まるまで差し込んだあと左にまわしてください。フィラメントが水平になります。



5.リングフタを固定する

●リングフタのつめが案内筒リングの角穴に入っていることを確認してから、もとどおりに止めねじで固定してください。



燃焼筒の交換

燃焼筒のガラスが割れたときは、お買い求めの販売店又は、お近くのコロナお客様ご相談窓口にご相談ください。

12 保管（長期間使用しない場合）

おしまいになるときは、日常の点検・手入れの項を参照し、次の要領で保管してください。

1.給油タンク・固定タンク内の灯油を抜き取ってください。（8ページ参照）

- ●水、ごみなどを残したまま保管すると、さびや穴あきの原因になったり、しん上下不良の原因になることもあります。
- ●灯油を抜いたあとは、内部をよく乾燥させてください。

2.しんの手入れをしてください。（8ページ参照）

3.必ず乾電池を取りはずしてください。

4.内部のごみやほこりを取ってください。

- ●燃焼筒と給油タンクを取り出し、しん調節つまみを抜いたあと、キャビネットの左右側面（下部）の止めねじ４本と操作部中央の止めねじ１本をはずしキャビネットを前方に約45°傾け、操作部が引っかからないよう注意して持ち上げてはずしてください。掃除機などでごみやほこりを取り除いてください。

5.ストーブの外観を掃除してください。（7ページ参照）

6.対震自動消火装置を作動させてください。（7ページ参照）

7.包装箱に入れて、乾燥した場所に水平に保管してください。

- ● ⚠注意 **傾けたり、横倒しの状態では絶対に保管しないでください。**
- ●取扱説明書は、保証書と共に大切に保管してください。
- ●来シーズンにお使いになるときは、対震自動消火装置の作動を２～３回くりかえし、しんが最後まで下がることを確かめてください。

13 仕様

型式の呼び		SX-C21
種類		しん式・放射形
点火方式		電池点火
使用燃料		灯油（JIS１号灯油）
燃料消費量		0.218L/h
暖房出力		2.09kW(1,800kcal/h)
油タンク容量		4.0L
燃焼継続時間		約18.0時間
標準適室		木造 10.0㎡(6畳)まで コンクリート 13.0㎡(8畳)まで
外形寸法		高さ475㎜ 幅452㎜ 奥行314㎜ （置台を含む）
質量		7.3kg
しん	種類	普通筒しん
	呼び寸法	内径65㎜ 厚さ2.8㎜
安全装置		対震自動消火装置
その他の装置		給油時自動消火装置

型式の呼び		SX-C26
種類		しん式・放射形
点火方式		電池点火
使用燃料		灯油（JIS１号灯油）
燃料消費量		0.267L/h
暖房出力		2.56kW(2,200kcal/h)
油タンク容量		4.0L
燃焼継続時間		約15.0時間
標準適室		木造 11.5㎡(7畳)まで コンクリート 15.0㎡(9畳)まで
外形寸法		高さ510㎜ 幅452㎜ 奥行314㎜ （置台を含む）
質量		7.4kg
しん	種類	普通筒しん
	呼び寸法	内径65㎜ 厚さ2.8㎜
安全装置		対震自動消火装置
その他の装置		給油時自動消火装置

14 アフターサービス

保証について

- ●このコロナ石油ストーブには保証書がついています。「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受けとりになり、大切に保管してください。
- ●保証期間はお買い上げいただいた日から１年間です。
- ●次のような原因による故障および事故につきましては、保証の対象になりませんので注意してください。
  - ■変質灯油や不純灯油など、また灯油以外の燃料使用による故障や事故。
  - ■誤った使用方法による故障や事故。

修理を依頼されるとき

- ●本書の「故障・異常の見分け方と処置方法」（9ページ参照）の項に従って調べても良くならないときは、お買い求めの販売店又は、お近くのコロナお客様ご相談窓口にご連絡ください。
- ●保証期間中であれば保証書の規定に従って無料修理させていただきます。

■保証期間が過ぎているときは

- ●お買い求めの販売店にご相談ください。修理によって使用できる製品についてはお客様のご要望により有料修理いたします。

■補修用性能部品の保有期間

- ●石油ストーブの補修用性能部品（機能を維持するために必要な部品）の保有期間は製造打ち切り後６年です。

●輸送時や運搬時に給油タンク・固定タンク内に灯油が残ったままですと、傾きや振動で灯油がこぼれることがありますので、必ず抜き取ってください。